

出張報告書

平成 2 8 年 2 月 2 6 日

市議会議長 様

会 派 名 刷新クラブ

代表者氏名 京西 且哲

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 食物アレルギーを有する子どもへの給食対応について
- 2 出張先 社会福祉法人友愛福祉会おおわだ保育園
大阪府門真市野里町 4 1 - 3 9
- 3 出張期間 平成 2 8 年 1 月 2 9 日～平成 2 8 年 1 月 2 9 日
- 4 出張者氏名 金子 拓矢
- 5 てん末報告 別紙のとおり

報告書

食物アレルギー対応給食について大阪府門真市にある「おおわだ保育園」では先進的な取り組みが行われている。同園が「なかよし給食」と呼ぶ取り組みである。

給食では、保育所や小学校、中学校を問わず一般的には食物アレルギーの原因食材をそのアレルギーを有する児童ごとに除去する、所謂「除去食」対応が一般的であるが、「なかよし給食」とは、食物アレルギーを有する児童が食べられない食材を全員の給食においてそもそも使用しないという発想で献立を練り上げ、給食提供を行う取り組みである。

幼少期は、他の子と同じが嬉しい年代であると同時に他の子と違うことが受け入れ難い年代であり、「なるべく多くの子どもに同じ給食を食べさせてあげたい」という思いで、五年程前から栄養士と試行錯誤を繰り返しながら挑戦してきたということである。最近はＴＶや新聞等でも取り上げられる機会が多くなっており、北海道千歳市から同市職員が幾度となく調査に通われ、今では市の特性に合わせた献立開発を行い全市市立保育所で導入している。但し、一園では可能な事であっても、子ども数が増えれば、相対的に対応しなければならないアレルギー原因食材が増えるので、完全に対応することは出来ない。頂いた資料によると、千歳市では、食物アレルギー疾患児童数が多い牛乳と卵に絞り取り組んでいるよ

うである。因みにおおわだ保育園では、乳、卵に加え、小麦やごま等も使用していない。

「なかよし給食」に取り組む事で、誤食、誤飲、誤配等教育現場で生じるリスクを数段抑えることが出来るのは間違いない。本市ではそのリスクに不安を感じ、本年四月から小学校給食で除去対応水準を引き下げることになっているが、それはそのまま給食をこれまで通りに食べることが出来ない児童の増加を引き起こすことに他ならない。「なかよし給食」を上手く活用すれば、リスク低減を求める教育現場とこれまで通りの給食提供を求める食物アレルギー性疾患を抱える児童を持つ保護者や児童本人との対立を解消するための一つの解答になり得ると確信した。

以上